ロムニー選出への軌跡-2012年共和党大統領予備選-

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学政治経済研究所 公開日: 2015-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 井田, 正道 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/17158

ロムニー選出への軌跡

── 2012年共和党大統領予備選 ──

井　田　正　道

《論文要旨》

政党システム論にしたがえば，アメリカはイギリスと並んで2党制の代表的国家である。ただ，イギリスが20世紀前半に2大政党の一方が自由党から労働党にとって代わられたのに対して，アメリカでは19世紀後半から長期にわたって共和党と民主党からなる2党制が維持されており，世界にその類をみない高度の安定性をその特質として挙げることができる。

この長期にわたる2党制維持の原因については，いくつかの視角から説明がなされてきたが，決定的な説明は存在していない。ともかく，同一政党からなる2党制が維持されるためには，政党が断片化を起こさないことが重要な要素である。しかし，多様な利害や意見を包含する政党でなければ大政党を維持することは困難である。一般に大政党には，イデオロギーの違いなどに基づく派閥が存在し，各政党の現状を理解する上で派閥の理解が必要不可欠となる。派閥政治は議院内閣制では，党首の選出の際などに発露されやすいが，大統領制では大統領候補などの候補者決定の際に表面化しやすい。大統領候補を予備選挙によって選出するシステムを採用するアメリカでは，派閥政治は議員のみならず支持者をも巻き込んだ形で行われることになる。したがって，予備選はアメリカの2大政党の現状を考察する上で参考になるデータを提供してくれる。

アメリカの2大政党に関しては，そのイデオロギー的類似性がしばしば指摘されてきた。けれども近年では，2大政党の分極化を指摘する見方も多い。2012年大統領予備選に関しては現職の大統領が存在する民主党に関しては事実上の無競争であり，注目は挑戦者側の共和党に向けられた。そして，共和党予備選にあたって，注目すべき点のひとつに，2010年中間選挙におけるティーパーティ旋風で注目を集めた保守派の動向にあったといえよう。出口調査結果を見ると，参加者のなかでティーパーティ運動を支持する割合は全般的に高かったものの，保守系の候補者が次々と名乗りを挙げた結果，保守票の分散を招いた。また，本選挙での当選可能性を重視した現実主義的な共和党員が多かったことが，ロムニー指名をもたらした。

キーワード：アメリカ政治，政党論，米国共和党，米大統領選挙，米大統領予備選挙

はじめに

アメリカはイギリスと並んで2党制の代表国とみなされてきた。ただ，イギリスが20世紀前半に2大政党の一方の主体が自由党から労働党にとって代わられたのに対して，アメリカでは長期にわたって共和党と民主党からなる2党制が維持されており，「アメリカの2大政党制は，世界にその類をみない高度の安定性を有する制度」といってよい（竹尾1977：41）。

この長期にわたる2党制の維持の原因についてはいくつかの理論が存在するが，ともかく2党制が維持されるためには，政党が断片化（fragmentation）を起こさないことが重要な要素である[1]。いうまでもなく，多様な利害や意見を包含する政党でなければ大政党を維持することは困難である。したがって，一般に大政党には，イデオロギーの相異などに基づいた派閥（faction）が存在し，各政党の現状を理解する上で派閥の理解が必要不可欠となる。派閥政治は議院内閣制では，党首の選出の際などに発露されやすいが，大統領制では大統領選挙や州知事選などの候補者の決定の際に表面化しやすい。アメリカでは，一党優位の州では州知事選や上院選の候補者選定の際に露骨な派閥政治が行われる傾向がある。なぜならば，一党優位州では優位政党の候補者決定が即ち，事実上の公職の決定となるため，それだけ熾烈な戦いが生じる可能性が高くなるからである（松尾2004）。また，大統領候補を予備選挙によって選出するシステムを採用するアメリカでは，派閥政治は議員のみならず支持者をも巻き込んだ形で行われることになる。予備選挙の参加者は，本選挙での参加者数に比べると一部にすぎないこともあり，イデオロギー的な偏りが発生する。しかし，予備選参加者のイデオロギー的傾

向や投票基準はアメリカの大政党を研究する上で貴重なヒントを提供してくれる。

2012年大統領選に関しては，民主党は現職大統領のバラク・オバマ（Barack Obama）が立候補を表明したため，予備選の注目は専ら共和党に向けられた。ここでは2012年の共和党大統領予備選をとりあげる。オバマ政権は，2009年1月に国民の高い期待のもとで発足したが，リーマンショックの後続く経済停滞などを背景に，次第に国民の高い期待は萎んでいき，2010年11月に行われた中間選挙でのティーパーティ旋風により，民主党が大敗する。その後もオバマ政権に対する支持率が回復しない状況下で始まった共和党大統領予備選は，選挙戦や景気動向の展開によっては“勝ち目のある選挙”になりうる可能性を秘めていた。しかしながら，中間選挙で注目を集めた共和党の保守化の流れが大統領選の予備選にまで持続するかといえば，それほど単純ではない。なぜならば，中間選挙よりも投票率が上昇する大統領選においては，穏健派の候補者を擁立したほうが，無党派層や中道票を取り込みやすいという性格を有しているからである。

なお，予備選とはプライマリー（primary）の和訳であるが，このprimaryには，党員集会（caucus）や党大会を含める場合と，党員集会と区別した選出形態を指す場合がある。ここでは前者の意味で用いる場合は“予備選”と表記し，党員集会を含めない選出形態を表す場合は“予備選挙”と表記することにする。

1. 共和党の派閥

アメリカでは1980年代中盤からおよそ1世紀半の長期にわたって，民主党と共和党による2党制が維持されてきた。この期間にイギリスではトーリー対ホイッグの2党制から，保守党，自由党，労働党の3党制の時期を経て保

守党と労働党による2党制に移行していることと比べると，アメリカの2党制はきわめて強い持続性を有しているといえる。しかし，2大政党制は第二次大戦後には，民主党の分裂というかたちで崩れかけたことがある。その最たる出来事が1968年の南部における民主党の分裂であり，いわゆるニューディール連合の崩壊である。民主党対共和党という2大政党の看板は継続していても，その支持層との関係は何度か大きな変化を経験しながら維持されてきた。

この大きな変化はキー（V. O. Key）が提唱した再編成（realignment）という概念を用いて説明されることが多い。この再編成という概念は，日本においてしばしば用いられる政界再編とは次元が異なる。日本で用いられている政界再編とは政党の離合集散のことであるが，ここでいう再編成は政党と社会的諸集団との関係の変化を意味する。そして決定的再編は1890年代，1930年代，そして1960年代に行われたとされ，ほぼ定期的に発生してきたとされる。もっとも，1960年代に関しては政党脱編成（partisan dealignmnt）という見方も多く，再編成と捉えてよいかについては議論もある（Crotty 1980, Dalton, Beck and Flanagan 1984, Crewe and Denver 1985）。また，30年ごとというサイクルからすると1990年代または2000年代初頭に次の再編が行われてもよいのだが，それは発生していない（Shafer 1991, Wattenberg 1998, Dalton and Wattenberg 2002）。ただ，1968年代以降の大統領選の選挙地図は明らかに変化しており，南部白人の政党帰属意識の分布も変化している（McKee 2010）。

1960年代の再編までの時期における民主党と共和党はともに，かなり広範な利害，派閥，イデオロギーを傘下に収める，いわば“アンブレラ政党”であった。例えば共和党は，経済的イッシューについては概して保守的であったが，同時に近代的価値観をもち，人種問題についてはリベラルなスタンスを示していた。それに対して民主党は経済的イッシューについてはよりリベ

ラル，進歩的であったが，同時に伝統的価値をもち，人種問題については支持基盤の一角に南部の白人至上主義者が存在していた。このようなことから保守－リベラルという一次元的イデオロギー的スペクトラムからすると，両党はともに広範な支持層にわたっていたといってよい。

そして，2大政党には大きく2つの派閥が存在してきたとする見方が存在する（Rae 1998)。民主党に関しては，1930年代のいわゆる“ニューディール連合”のあと，労働者，大都市住民，改革志向のミドルクラスが存在する一方で，支持基盤の中にはリベラル派と南部保守派という大きな2つの派閥が存在した。共和党の派閥に関しては，中道からリベラル寄りに位置するウォールストリート派と保守派に位置するメインストリート派が存在するとされてきた。ウォールストリート派にはコスモポリタンや多国籍大企業などが含まれ，減税や産業の規制緩和などを主張する。他方，メインストリート派には保守的価値観の持ち主，中小企業経営者，ナショナリスト，孤立主義者などが含まれ，加えて人工妊娠中絶反対のような，社会保守の層も含まれる。

ラエ（Nicol C. Rae）はさらに中道リベラル寄りのウォールストリート派と保守派のメインストリート派のそれぞれを2つの派閥に区分した。ウォールストリート派のなかは，中道派と進歩派に分かれている。中道派は，小さな政府を志向する財政保守であるが，公民権問題や人工妊娠中絶のような社会的イッシューに関しては中道あるいはリベラルの考え方をとる。この派閥に位置する主要な人物としては，デューイ（Thomas E. Dewey)，アイゼンハワー（Dwight D. Eisenhower)，フォード（Gerald Ford)，ブッシュ（父・George Bush）が挙げられる。進歩派は時々の問題に関してイデオロギー的な変更を提示する。ウィルキー（Wendell L. Willkie）やネルソン・ロックフェラー（Nelson Rockefeller)，1980年のアンダーソン（John B. Anderson）がこの派閥に位置する（Rae 1989, 1998)。

メインストリート派は，愛党精神派（Stalwart）と原理主義派（Funda-

mentalist）に分かれる。愛党精神派も原理主義派はともに財政保守であり社会保守であるが，愛党精神派は妥協をいとわないのに対して，原理主義派はよりイデオロギー志向が強く，妥協を嫌う。愛党主義派は社会的イッシューよりも財政保守を優先し，イデオロギーよりも政党利益を優先する。共和党の理念を実現するにはまず，選挙で勝って政権を取らなければならないと考える現実主義者である。原理主義派には1964年に大統領候補となったゴールドウォーター（Barry Goldwater）がいる。彼が共和党の候補者に選ばれた理由は本選挙で勝つ可能性が高いからではなく，ただ単に共和党が保守政党になるためであった。この1964年以前の共和党は“リンカーンの党（the party of Lincoln)”であったが，64年の大統領予備選においてゴールドウォーター上院議員がロックフェラー（Nelson Rockefeller）ニューヨーク州知事とスクラントン（William W. Scranton）ペンシルバニア州知事を破ることにより，保守派が共和党の支配権を掌握した（Paulson 2013)。

ポールソン（Arthur Paulson）による分類に従えば，2000年以降の共和党大統領予備選をみると，ジョージ・W・ブッシュ（George W. Bush）は愛党精神派，2000年と2008年に出馬したマケイン（John McCain）は中道派，2008年と2012年に出馬したロムニー（Mitt Romney）は愛党精神派，そして2008年に出馬したハッカビー（Mike Huckabee)，及び2012年に出馬したサントラム（Rick Santorum）とギングリッチ（Newt Gingrich）は原理主義派に位置する。そして，1940年代から50年代までは，大統領候補の選出に関して進歩派，中道派，愛党精神派の争いになることが多かったが，1964年にゴールドウォーターが出馬してきてから，ほとんどの予備選で原理主義派が立候補するようになる。それに対して進歩派の候補者が少なくなり，ここ30年間では進歩派から有力候補が出てきていない。また，この70年間を振り返ると，進歩派と原理主義派から大統領候補が選ばれることは少なく，中道派か愛党精神派から選出されることが多い傾向が認められ

る（Paulson 2013）。

2012年予備選の事実上の争いは，愛党精神派のロムニーと原理主義派のサントラムおよびギングリッチとの争いという構図であった。なお，ロン・ポール（Ron Paul）は1988年にリバタリアン党から大統領選に出馬した経歴をもち，教条主義的なリバタリアンである。メインストリート派の中の2つの派閥間での争いとなった背景には，共和党予備選の参加者のイデオロギー的保守化が関係していると考えられる。予備選の出口調査によると，共和党予備選の参加者は“保守化”している。保守派の割合は1976年と1980年には30%台であったが，80年代から上昇し，2012年には68%に達していた（図1）。進歩派に属する有力候補は1980年のアンダーソンを最後に，その後は出現していない。また，この分類に従うと，2012年予備選では原理主義派に属する有力な候補者が2名存在したことになり，そのことが2012年予備選の特徴のひとつであったといえる。

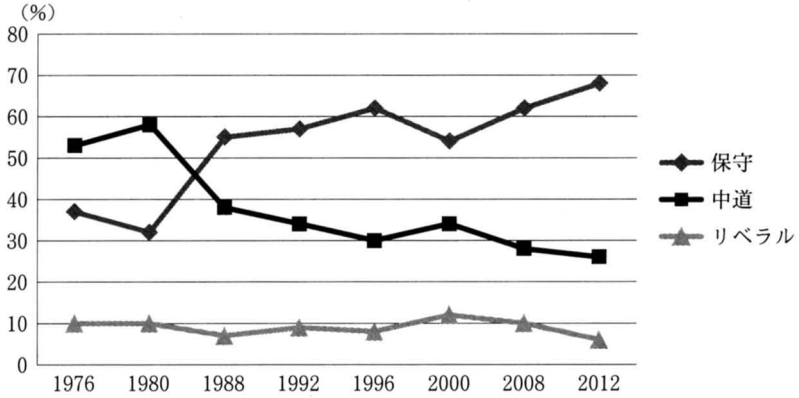

図1　共和党大統領予備選参加者のイデオロギー分布，1976-2012
出所：Paulson 2013：28.

2. 2012年共和党大統領予備選

2-1　候補者

現職候補が不在であった，前回2008年選挙とは異なり，2012年大統領選は民主党のオバマが現職であることもあって，予備選前から民主党大会での指名が確実視されていた。したがって，予備選の焦点は専ら共和党の候補者指名レースに向けられていた。そして，前述のようにオバマ人気に陰りが見えるなか，共和党にとっては“勝ち目のある選挙”の候補者選びであった。前回の2008年予備選では，穏健派のマケインを擁して敗北した共和党であったが，2010年の中間選挙でのティーパーティ旋風により，保守派の動向も気になる状況にあった。

また，バーデン（Barry C. Burden）は，2012年予備選の特徴として，出馬が取りざたされた著名な人物で立候補しないことを選択した人の多かったことを挙げる。従来の予備選でも，例えば1992年のニューヨーク州知事のマリオ・クオモ（Mario Cuomo）や，1996年における陸軍大将コリン・パウエル（Colin Powell）のような立候補すればかなり有力視される人物が出馬を辞退したが，今回は有力候補で出馬を見合わせた人物の数が多かった。その理由として，今回の選挙ではおそらくオバマが再選を果たすだろうと考え，今回は見送って2016年選挙に出馬した方がリスクが少ないという判断と，スーパーPAC501c4に該当する非営利社会福祉団体の台頭により挑戦者にとって資金集めがより厳しくなるだろうという見通しが影響したのではないかと述べている（Burden 2014: 23)。

出馬しなかった著名人物としては，クリス・クリスティ（Chris Christie）ニュージャージー州知事，ミッチ・ダニエル（Mitch Daniels）インディアナ州知事，マイク・ハッカビー前アーカンソー州知事，ポール・ライアン

(Paul Ryan) 下院予算委員会委員長（ウィスコンシン州選出)，前アラスカ州知事のサラ・ペイリン（Sarah Palin）が挙げられる。なかでも2008年選挙で副大統領候補であったペイリンは，その後のティーパーティ運動の立役者でもあり，2009年夏にアラスカ州知事を辞してその後2年間にわたって自身のPAC（SarahPAC）を通じた資金集め，保守系メディアへの出演，講演活動等を活発に展開していただけに注目度が高かった。ギャラップが2011年5月に実施した全国世論調査では，ペイリンはロムニーに次いで高い支持率を得ていた（Jones 2011)。しかし結局，2011年10月初頭に大統領選不出馬を表明した。また，リバタリアン寄りのゲリー・ジョンソン（Gary Jhonson）前ニューメキシコ州知事も2011年4月に共和党予備選に出馬表明をしたが，同じリバタリアンのロン・ポールとの一本化ができず，かつ支持率も低迷していたこともあり，2011年12月末にリバタリアン党に移った。結局，ジョンソンは2012年5月にリバタリアン党から大統領候補の指名を受けた。

結局，共和党の大統領候補指名レースに名乗りを挙げたのは，ミット・ロムニー前マサチューセッツ州知事，リック・ペリー（Rick Perry）テキサス州知事，中道派のジョン・ハンツマン（Jon Huntsman）前ユタ州知事，リック・サントラム元上院議員（ペンシルバニア)，ニュート・ギングリッチ元下院議長，ロン・ポール下院議員（テキサス)，保守派でミネソタ州選出の女性下院議員で典型的なティーパーティ活動家であるミシェル・バックマン（Michele Backman)，ジョージア州アトランタの黒人実業家ハーマン・ケイン（Herman Cain)，であった。出馬が取りざたされた候補者で出馬を見送った者は少なくなかったにも関わらず，候補者の数は近年の予備選並みであった。

バーデンは，今回の立候補者の顔ぶれの特徴として，第1に大統領予備選に参戦した経験を持つ候補者が少ないこと，第2に下院議員出身者が3名も

含まれていること，第3の特徴としてはハードコアな保守派の候補者が多いこと，を挙げる（Burden 2014: 24)。

第1の特徴に関しては，1960年から2008年までの間の候補者のうち，全国展開で行われる大統領選レースに参戦した者の約40%は以前にも大統領選に参戦した経験をもつが，今回その経験を有するのはロムニーとポールの2名だけであった。この2名は2008年選挙に続いての参戦であった。

第2の特徴として，下院議員が大統領候補の指名を受けることは過去の例からすると極めて困難なことであるにも関わらず，ポール，ギングリッチ，バックマンという3名の下院議員経験者が名乗りを挙げたことが特徴的であった。1960年から2012年までの予備選に参戦した人物の3分の1以上が上院議員経験者であり，22%は州知事経験者，そして下院議員経験者は13%にすぎなかった。

第3の特徴に関しては，穏健派のロムニー，ハンツマン，そして，外交面での孤立主義などリバタリアン色の強いポールの3名を除いて，社会保守，財政保守，外交保守の3つの面でいずれも保守的な考えを持つ人物が多数出馬したことである。この第3の特徴は，アメリカにおける2大政党の両極化，そして共和党の保守化の反映と考えられるが，多数の保守系候補の存在により保守票の分散化が発生し，結果的に穏健派の候補者を利する可能性も秘めていた。もうひとつ指摘しなければならないのは，白人男性の政党というイメージが強い共和党で，黒人（ケイン）や女性（バックマン）と言った政治的マイノリティの候補者が何れも保守色の強い候補者であるという点である。前回2008年選挙でマケインのランニング・メイトとなったペイリンのケースも同様であるが，共和党内でマイノリティに属する人物が多くの支持を得るためには保守色を前面に打ち出した方が有利であるという状況を反映している。

この中で，選挙準備に関して早々に立候補を表明したロムニーが優位な状

況にあった。彼は前回の予備選に参戦していたため，効率的な選挙キャンペーンは何なのかを知り，加えて2007年1月にマサチューセッツ州知事を終えてからは政治公職には就いておらず，またビジネスにも関わっていなかったので大統領選にほとんどすべての精力を注げる環境にあった。そして，継続的に資金集め，選挙陣営の充実化，そして方々を訪れて共和党員からの支持の獲得活動を続けた。このように，キャンペーンで先行したロムニーは，確固たる有力候補として広く認知され，リアル・クリア・ポリティクスによる全国世論調査では2011年2月からペリーに抜かれる8月下旬に至るまで常に支持率トップの位置を維持した（Real Clear Politics 2012)。

実際の予備選投票は，2012年1月3日のアイオワ党員集会からであるが，事実上のレースはその前年から開始されており，この段階では全国世論調査における支持率の重要性を指摘することができる。そこで，表1には，2011年7月から12月までの月末における支持率の上位3名の推移を示す。第1位は7月末時点ではロムニーであったが，その後，ペリー→ケイン→ギングリッチと保守系の候補が代る代る占めることになる。その間，ロムニーは各月末時点では2位という状態が続いていた。

このうち，テキサス州知事11年の実績を強調したペリーは2011年8月に出馬表明をしたあと，世論調査ではトップに躍り出て注目されたが，その翌月行われた討論会での失態により支持率は急降下し，10月初めにはトップの座をロムニーに譲る結果となった[(2)]。加えて，11月初旬にミシガン州ロチェスターで行われた討論会では，ペリーが廃止を主張する3つの政府機関のうちのひとつの機関名（環境庁のこと）を討論会中に思い出せないという失態も犯し，支持率はさらに低下傾向を辿った（Saenz 2011)。

この他，ジョージア州アトランタの黒人実業家ハーマン・ケイン（Herman Cain）は，2011年5月に予備選出馬を表明し，連邦所得税，同法人税，同消費税をすべて9%とする「999プラン」を主張して話題となり，

表1　全国世論調査における上位3名，2011年7月～12月

	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1位	ロムニー	ペリー	ペリー	ケイン	ギングリッチ	ギングリッチ
(%)	21.5	24.2	26.5	25.0	23.8	27.4
2位	バックマン	ロムニー	ロムニー	ロムニー	ロムニー	ロムニー
(%)	12.9	17.0	23.0	24.3	21.3	25.2
3位	ペリー	バックマン	ケイン	ペリー	ケイン	ポール
(%)	11.9	9.3	9.0	10.5	15.5	12.2

（注）リアル・クリア・ポリティクス・データ（各月最終データ）。Real Clear Politics 2012.

10月下旬から11月中旬にかけては支持率でトップを獲得した。しかしながら，この時期にセクシャルハラスメント疑惑や不倫疑惑といった私生活上のスキャンダルがメディアに噴出し，本人は討論会で疑惑について全面否定したものの，12月初頭に大統領候補者選出レースからの撤退を表明した(Oliphant 2012)。

このように支持率で一時トップに立った2人の保守系候補が，討論会でのミスとスキャンダルで失速したということもロムニーを利する結果となった。

1968年から2008年までの計11回の大統領選を振り返ると，共和党が大統領候補として指名した者は，一回を除いて現職の大統領または副大統領，またはすでに一度大統領候補として指名を受けた者，あるいは1980年のレーガン（Ronald Reagan）のように以前の予備選におけるランナーアップの位置にあった者であった。一回の例外は2000年のジョージ・W・ブッシュであり，彼は前に挙げたいずれにも該当していない。今回の候補者の中で，前の3つのいずれか（現職，指名経験者，大統領予備選ランナーアップ経験者）に該当するのはロムニー候補のみであった。

2012年に入ると，主要候補者はロムニー，サントラム，ギングリッチ，ポールの4名に絞られてきた。これら4各候補者の主要な政治的争点に対する考え方，以下のとおりである（Woodward 2011)。

人工妊娠中絶

ギングリッチ：人工妊娠中絶に補助金を出すことに反対し，否定的な立場をとるものの，憲法で禁止することについては反対。ポール：連邦政府は人工妊娠中絶を合法化すべきでも禁止すべきでもない。ロムニー：合衆国憲法が女性の堕胎の権利を認めているとするロー対ウェード最高裁判決は今後，覆されるべきである。この問題は各州が判断すべき。サントラム：合衆国憲法で人工妊娠中絶を禁止すべきであり，レイプの場合であっても人工妊娠中絶には反対。この問題に関しては，サントラムが最も保守的であり，リバタリアンのポールが最もリベラルな立場をとっていた。

財政赤字

ギングリッチ：1990年代の7年財政均衡プランを支持。ポール：政府支出を半減し，連邦政府を骨抜きにすべきである。外国への補助金や紛争に対する支出もやめる。ロムニー：金融セクターへの救済は支持するが，ゼネラルモーターズやクライスラーの救済には反対。サントラム：金融セクター，産業セクターの何れに対する救済にも反対。

経　済

ギングリッチ：株価暴落後の財政産業規制を撤廃。連邦準備銀行の権力を制限。ポール：連邦準備制度を廃止，ほとんどの連邦政府による規制を廃止。ロムニー：減税，規制緩和，均衡財政，貿易促進。サントラム：製造業に対する法人税廃止。大幅な規制緩和。何れの候補者も政府の民間への関与を弱めるべきと主張するが，濃淡がみられる。

同性婚

ギングリッチ：合衆国憲法を修正して同性婚を禁止すべき。ポール：合法

化するか禁止するかは州の判断に任せるべし。ロムニー：この問題は州ではなく連邦政府で決定すべきであり，同性婚禁止の合衆国憲法修正に賛成。サントラム：合衆国憲法を修正して同性婚を禁止すべき。この問題に対する判断は州に委ねるべきではない。ポール以外は連邦政府が同性婚を禁止すべきと主張する。

移　民

ギングリッチ：不法移民の一部には合法移民の選択肢を与えてもよい。軍隊経験へ経た不法移民の子どもには法的地位を付与してよい。英語を公用語とする。ポール：不法移民の子供としてアメリカで生まれた子どもに市民権を付与することに反対。不法移民に対する社会的サービスに反対。ロムニー：米墨国境のフェンスを完成。不法移民に対する教育給付に反対。サントラム：米墨国境のフェンスを完成。不法移民に対する教育給付に反対。

税　制

ギングリッチ：法人税を12.5%に減税。ポール：連邦所得税と内国歳入庁（IRS）の廃止。ロムニー：法人税率を25%に減税。年収20万ドル未満の層に対してはキャピタルゲイン税を廃止。サントラム：法人税廃止。連邦消費税の廃止。なお，何れの候補者も遺産税（estate tax）の廃止とブッシュ減税の継続を主張している。

教　育

ギングリッチ：教育省の役割を縮小。ポール：教育省を廃止し，教育分野での連邦政府の役割を終わらせる。ロムニー：かつては教育省廃止論であったが，後に教育省の教員組合の利益を抑制する役割を評価している。サントラム：教育省の機能は大幅に縮小すべきだが廃止すべきではない。いずれも

教育省の機能は現在よりも縮小すべきとの立場に立つが廃止論者はポールのみである。

医療保険

すべての候補者がオバマ医療保険改革法の廃止を主張。ギングリッチ：保険加入を促進する税額控除の拡大。ポール：強制保険に反対。保険適用に関するすべての連邦政府の補助金廃止。ロムニー：保険適用範囲に関する連邦政府の命令に反対。未来の退職者がメディケアに行く代わりに民間保険に加入する際の補助金を大幅増。サントラム：ブッシュ政権の高齢者向けの処方薬プログラムを支持。

戦　争

ギングリッチ：イラク戦争を支持。早期撤退反対。アフガニスタンからの性急な撤退に反対。ポール：外国に駐留する軍隊のほとんどを引き上げる。米国のリビア介入に反対。ロムニー：アフガニスタンにおいてアメリカの利益を確保し，われわれのミッションを完遂する上で必要な数を駐留させる。ただ，具体的な必要人数には言及していない。サントラム：オバマのプランよりもややゆっくりとアフガニスタンから米軍を撤退させる。イラクには2万～3万の兵士を駐留させる。

各候補のイデオロギー的位置については，それぞれの主張を検討することも重要であるが，その他に有権者がどのように捉えているのか，という視角も重要である。この点に関しては，出口調査データのなかで参考になるデータがある。それは3月20日に実施されたイリノイ州予備選挙の出口調査である。同調査では，ギングリッチ，ロムニー，サントラムの3候補の政策的立場について，「保守的すぎる」「保守的でなさすぎる」「おおむね良い」の3

つの回答選択肢を提示している。ギングリッチについては「保守的すぎる」とした割合が25%であったのに対して「保守的でなさすぎる」と回答した割合が20%となり，ほぼ拮抗していた。ロムニーについては，「保守的すぎる」とした割合が8%であったのに対して「保守的でなさすぎる」と回答した割合が42%にのぼり，保守派にとって物足りない候補者として捉えられていた。それに対して，サントラムについては，「保守的すぎる」とした割合が34%であったのに対して「保守的でなさすぎる」と回答した割合が13%にとどまり，保守派に偏っている共和党予備選参加者のあいだでさえ，保守的すぎると思われていた。この回答分布からすると，サントラムの方がギングリッチよりもより保守的な候補者であるとみなされており，そしてロムニーは他の2名よりも保守色が薄い候補者とみなされていた（CNN 2012b)。

2-2　投票者（参加者）のイデオロギー分布

予備選挙や党員集会に参加する人のイデオロギー分布は支持者全体のそれとも多かれ少なかれ異なり，党員集会の参加者と予備選挙の参加者の間でも異なる。共和党の場合は，党員集会の方が予備選挙よりも保守的な層に偏る傾向がある。ここでは，2012年の共和党予備選のうち，出口調査（党員集会では入口調査）が行われた20州について，自身のイデオロギーを「保守」と回答した者，「とても保守的」と回答した者，またティーパーティ運動を支持すると答えた者のパーセンテージを表2に示す。

まず，保守層の割合が非常に高いのは，アイオワとネバダであり，ともに8割を超えている。これは両州が党員集会を採用していることと大いに関係がある。党員集会に参加する人は活動的な党員に偏る傾向がある。それに対して，予備選ではより広範な支持者が参加する傾向がある。

予備選挙を採用する州に関しては，ルイジアナ，ミシシッピ，オクラホマ，テネシー，ジョージアといった南部の諸州において保守層のパーセンテージ

表 2　共和党予備選参加者に占める保守層の割合

	保　守	強い保守	ティーパーティ運動支持
アイオワ（C）	83	47	64
ニューハンプシャー	53	21	51
サウスカロライナ	68	36	64
フロリダ	69	33	65
ネバダ（C）	83	49	75
アリゾナ	73	34	60
ミシガン	61	30	52
ジョージア	71	39	69
マサチューセッツ	51	15	46
オハイオ	66	32	59
オクラホマ	75	47	68
テネシー	73	41	62
バーモント	47	19	42
バージニア	66	32	59
アラバマ	67	36	62
ミシシッピ	71	42	66
イリノイ	64	29	56
ルイジアナ	77	49	74
メリーランド	69	30	63
ウィスコンシン	61	32	49

(C)は党員集会
データ出所：CNN 2012b.

が高い。反対に，バーモント，マサチューセッツ，ニューハンプシャーといった北東部では保守層の割合が比較的低い傾向がある。

この保守層には「とても保守的（very conservative)」と回答した層と「やや保守的（somewhat conservative)」と回答した層が含まれている。「強い保守層」と「弱い保守層」と言い換えてもいいだろう。全体的にみると，保守層の約半分が「とても保守的」と回答する強い保守層である。ただ，ロムニーが知事を務めたことがあるマサチューセッツ州では，強い保守層は保

守層の内の3分の1以下であり，保守色が薄い。「強い保守層」の割合は，州によってかなりバラツキがあり，最も多いネバダとルイジアナで49%に達している一方で，マサチューセッツやバーモントのように2割を切る州もある。全体としてみると，勝敗の鍵を握るのは「弱い保守層」である。

また，2010年中間選挙の際に民主党大敗の流れを作ったティーパーティ運動を支持者の割合は，全体として高いパーセンテージを示しており，支持派が5割を超えている州が多い。州別の傾向としては，「保守的」と回答した者の割合と近いパーセンテージを示す州が多い。これら2つのパーセンテージ間の相関係数は.900であり，強い正の相関関係が認められた。すなわち，予備選参加者中に占める保守層の割合の多い州ほどティーパーティ支持派のパーセンテージも多いというほぼ直線的な関係性が認められるのである。昨今のアメリカにおける保守層には，小さな政府を志向する「財政保守」，道徳的な問題に対して厳格な「宗教保守」，ネオコンに代表される「外交保守」から構成されるといわれるが，ティーパーティという財政保守に関する考え方と保守割合との相関の高さは注目に値するといえるだろう。

州による保守色の濃淡は，候補者のイデオロギー的傾向にも表れることが多い。例えば，ロムニーはミシガン出身でマサチューセッツがホーム州であり，穏健派が多い地域に関係が深い。それに対してギングリッチはジョージアがホーム州であり，保守色の強い南部の出身である。

2-3　投票者（参加者）の年齢階層別構成

全体としてみれば，参加者の性別構成は男女ほぼ均等である。しかし，年齢階層別に関して，共和党は民主党の予備選参加者に比して，若年層の割合が低く，年齢階層別構成に大きな歪みが認められる。表3には，出口・入口調査における年齢階層別分布を示す。ここでは年齢階層を30歳未満の若年層，30歳から44歳までの前期中年層，45歳から64歳までの後期中年層，

そして65歳以上の高齢層に区分してある。なお，アメリカ大統領選における投票年齢は18歳以上であるが，予備選では17歳以上と規定している州もある（アイオワ，ネバダ，オハイオ，バージニア，ミシシッピ，メリーランド）。したがって，29歳以下の欄には18歳以上の州と17歳以上の州が混在している。

予備選や党員集会に参加した者の年齢階層別構成は，本選挙での投票者に比べて後期中年層と高齢層のパーセンテージが高く，若年層と前期中年層の

表3　投票者（参加者）の年齢階層別構成

	-29	30-44	45-64	65-
アイオワ（C）	15	16	42	26
ニューハンプシャー	12	19	48	21
サウスカロライナ	9	19	45	27
フロリダ	6	15	42	36
ネバダ（C）	8	15	43	35
アリゾナ	12	19	45	23
ミシガン	10	17	49	24
ジョージア	8	18	49	25
マサチューセッツ	8	15	47	29
オハイオ	11	21	45	23
オクラホマ	9	20	41	31
テネシー	8	19	46	27
バーモント	7	19	49	25
バージニア	12	17	45	26
アラバマ	10	21	42	27
ミシシッピ	8	16	43	33
イリノイ	8	17	50	24
ルイジアナ	8	17	49	26
メリーランド	9	14	48	29
ウィスコンシン	10	19	47	24
Median	9	17.5	45.5	26
Max	15	21	50	36
Min	6	14	41	21

データ出所：CNN 2012b.

パーセンテージは低い傾向がある。近年では，共和党は民主党に比して若年層の支持率が低いため，その傾向が表れた面もある。しかし，それにしても多くの州で若年層の割合は一桁であり，参加者全体に占める割合はひじょうに低く，若者に人気のある候補者は不利な状況にある。それに対して，後期中年層はすべての州で4割を超えており，共和党で大統領候補に選出されるためには，この年齢階層で高い支持を得ることがほぼ必須となっている。

2-4　投票基準

さて，予備選における投票基準は何であろうか。出口・入口調査では，「オバマに勝てる（Can Defeat Obama)」「真の保守（True Conservative)」「強く倫理的な性格（Strong Moral Character)」「適した経歴（Right Experience)」の4つの回答選択肢を提示し，択一方式で質問している。「オバマに勝てる」は選挙現実主義，「真の保守」は原理主義，「強く倫理的な性格」と「適した経歴」はリーダーとしての資質に関する事項である。言いかえれば，「オバマに勝てる」は愛党精神的な選択基準であり，「真の保守」は原理主義的なそれともいえる。出口調査あるいは入口調査が実施された20州の結果をみると，いずれの州も「オバマに勝てる」と回答した者が最も多く，おおむね4割前後の州が多い。そのレンジは31%（アイオワ）～45%（ジョージア）であった。それに対して，「真の保守」を挙げた者は1割台の州が多く，そのレンジは10%（マサチューセッツ）～25%（アイオワ）であった（表4)。また，「強く倫理的な性格」と回答した者のレンジは17%～24%とレンジが狭く，州によるバラツキが小さい。「適した経歴」を選んだ者の割合のレンジは13%（オクラホマ）～30%（テネシー）であった。このように選挙現実主義的な基準で選択した参加者が多かったという事実は，オバマ大統領に対する支持率が低下しており，勝つ可能性があるという状況認識が少なからず影響した結果と考えられる。

表4　最も重要な候補者の資質

	オバマに勝てる	真の保守	強く倫理的な性格	適した経歴
アイオワ（C）	31	25	24	16
ニューハンプシャー	35	13	22	26
サウスカロライナ	45	14	18	21
フロリダ	45	14	17	21
ネバダ（C）	43	18	20	16
アリゾナ	38	14	18	24
ミシガン	32	16	24	22
ジョージア	45	17	17	19
マサチューセッツ	41	10	19	27
オハイオ	42	17	21	17
オクラホマ	41	21	23	13
テネシー	38	16	23	30
バーモント	32	13	24	23
バージニア	44	15	21	15
アラバマ	35	18	24	19
ミシシッピ	39	20	20	19
イリノイ	36	19	23	18
ルイジアナ	38	23	23	14
メリーランド	41	18	20	18
ウィスコンシン	38	20	22	16

データ出所：CNN 2012b.

各州における最も重要な候補者の資質として，「真の保守」と回答した割合と各州の保守層の割合との相関係数は .677，また「とても保守」と回答した者の割合との相関係数は .762 であり，当然のことながら，「真の保守」を重視する参加者の割合は各州の共和党予備選参加者の保守色の度合いと大いに関係している。

出口・入口調査では，最も重要な争点についても 4 つの回答選択肢を提示して質問している。それらは，「人工妊娠中絶」，「財政赤字」，「経済」，「不法移民（アイオワ・ニューハンプシャーでは「医療保険」）」であった。表 5

表5　最も重要なイッシュー

	中　絶	財政赤字	経　済	不法移民	医療保険
アイオワ（C）	13	34	42		4
ニューハンプシャー	6	24	61		5
サウスカロライナ	8	22	63	3	
フロリダ	7	23	62	3	
ネバダ（C）	4	33	53	4	
アリゾナ	6	30	47	14	
ミシガン	14	24	55	3	
ジョージア	8	28	58	2	
マサチューセッツ	7	26	59	5	
オハイオ	12	26	54	5	
オクラホマ	13	32	49	3	
テネシー	11	32	50	4	
バーモント	8	26	59	3	
バージニア	8	31	53	4	
アラバマ	9	25	59	3	
ミシシッピ	11	26	56	3	
イリノイ	11	25	59	3	
ルイジアナ	13	28	51	4	
メリーランド	12	30	51	4	
ウィスコンシン	12	27	55	2	

データ出所：CNN 2012b.

に回答分布を示す。いずれの州でも最も多かったのは「経済」であり，ほとんどの州で過半数がそれを選択している。2番目に多かったのが「財政赤字」であり，そのレンジは22%（サウスカロライナ）～34%（アイオワ）である。人工妊娠中絶問題という社会的イッシューを最も重視した割合のレンジは4%（ネバダ）から14%（ミシガン）であった。リーマンショックから立ち直れていない状況にあったこともあり，経済重視の傾向がみられる。

2-5　結　果

2012年予備選のスケジュールについて簡単に説明すると，1月3日にアイ

オワでの党員集会から始まり，3月6日のスーパーチューズデーを経て，6月26日のユタまで続いた。2008年と比べて代議員数の多い州の日程を後ろに回し，事実上の候補者決定を伸ばすことによってメディアへの露出を長続きさせるという戦略をとった。これは，2008年の予備選で共和党は約1ヶ月で事実上決定したのに対して，民主党はオバマとヒラリー・クリントン（Hillary Clinton）とのあいだで約半年に渡って激戦が繰り広げられて有権者の注目を集めたという事実があった。そこで共和党全国委員会は，アイオワ，ニューハンプシャー，ネバダ，サウスカロライナ以外は3月6日以降に行うように指示した（朝日新聞　2011年10月19日）。

全国委員会によるこの指示に対してフロリダなどいくつかの州は守らなかったが，全体としてみると2008年に比べて日程は後ろにずれた（図2参照）。2008年には42州が2月までに予備選を実施していたが，2012年には2月までに実施した州は10州にとどまった。しかし，ロムニーが圧倒的な強さをみせたため，勝負は4月3日に事実上決定し，2008年の民主党予備選のようなパターンにはならなかった。表6にはその4月3日までの共和党予備選結果（主要候補者の得票率）を示す。

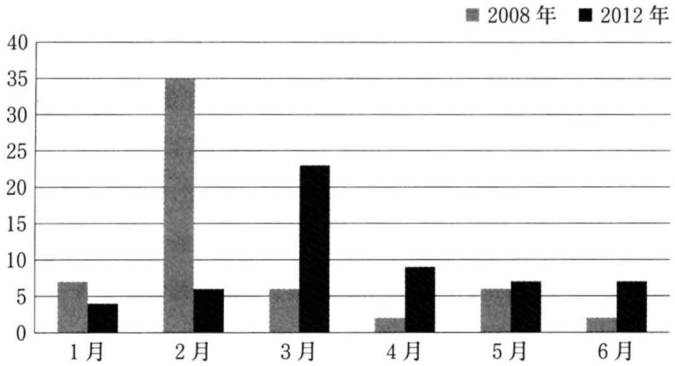

図2　共和党予備選月別スケジュール（実施州数），2008年，2012年

表6　4候補の得票率（～4月3日）

		ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
1月3日	アイオワ（C）	25	**25**	13	21
1月10日	ニューハンプシャー	**39**	9	9	23
1月21日	サウスカロライナ	28	16	**40**	13
1月31日	フロリダ	**46**	13	32	7
2月4日	ネバダ（C）	**51**	10	21	19
2月7日	ミズーリ	25	**55**		12
2月11日	メイン（C）	**38**	18	6	36
2月28日	アリゾナ	**47**	27	16	9
	ミシガン	**41**	38	7	12
2月29日	ワイオミング（C）	**39**	32	8	21
3月3日	ワシントン（C）	**38**	24	10	25
3月6日	アラスカ（C）	**32**	30	13	24
	コロラド（C）	35	**40**	13	12
	ジョージア	26	20	**47**	7
	マサチューセッツ	**72**	12	5	10
	ノースダコタ（C）	24	**40**	8	28
	オハイオ	**38**	37	15	9
	オクラホマ	28	**34**	27	10
	テネシー	28	**37**	24	9
	バージニア	**60**			40
	バーモント	**40**	24	8	25
3月10日	グアム（C）	**83**	7	6	3
	カンサス（C）	21	**51**	14	13
	北マリアナ（C）	**87**	6	3	3
3月13日	アラバマ	29	**35**	29	5
	ハワイ（C）	**44**	25	11	19
	ミシシッピ	31	**33**	31	4
3月18日	プエルトリコ	**83**	8	2	1
3月20日	イリノイ	**46**	35	8	9
3月24日	ルイジアナ	27	**49**	16	6
4月3日	DC	**68**		11	12
	メリーランド	**49**	29	11	10
	ウィスコンシン	**44**	37	6	11

（注）太字は最多得票者。(C)は党員集会。
データ出所：CNN 2012b.

序盤戦

2008年の民主党候補者がバラク・オバマに決定したことについて，口火を切るアイオワでの勝利が大きな流れを作ったといわれるように，アイオワ

やニューハンプシャーと言った初期の予備選の影響力は無視できない。

中西部に位置するアイオワの党員集会では，大接戦の末，わずか34票差でサントラムがロムニーを抑え，勝利を収めた。資金力のないサントラムは予備選に貧弱な選挙態勢で参入し，2011年の世論調査でのサントラム支持率は泡沫候補並みであったことからして，この結果は驚きもって捉えられた。実は1月3日夜には8票差でロムニーが勝利したと報じられたが，再集計の結果，サントラムの勝利となった。サントラムの勝利が発表されるまでに1週間かかり，その発表はニューハンプシャー予備選後にずれこんだ。入口調査によると，サントラムは女性票を最も多く獲得し，前期中年層と後期中年層からも最も多くの票を得ている。ただ，多くの候補者が存在したこともあって票は分散し，最多得票者のサントラムであっても得票率は25%にすぎなかった。アイオワでは表6に示す4候補の他に，ペリー，オバマ政権下で駐中国大使も務めたハンツマン，バックマンが立候補した。このうち，バックマンはアイオワ党員集会の後に早くも候補者指名レースから撤退した。

また，アイオワでのサントラムの勝利はロムニーよりも同じ保守派のギングリッチにとって痛手であった。リアル・クリア・ポリティクスやギャラップの全国世論調査によれば，2011年11月終盤から12月にかけては予想される共和党候補者の中でギングリッチ支持率が最も高く，事実上の戦いはギングリッチ対ロムニーになりそうな情勢であった。アイオワ党員集会前日の2012年1月2日の全国世論調査（リアル・クリア・ポリティクス）ではギングリッチの支持率が27.4%でトップであり，サントラムの支持率はわずか4.0%であった。それが党員集会後の1月9日調査ではサントラム17.3%，ギングリッチ16.0%と逆転された（Real Clear Politics 2012)。サントラムとギングリッチは同じ保守層を支持基盤としていたために，票を食い合う関係にあった。また，この世論調査の結果は，参加者わずか12万人のアイオワ党員集会の全米に対する影響力の大きさを認識させる結果であった。

続くニューハンプシャーの予備選挙（primary）では，ロムニーが39%の得票率で勝利を収めた。ニューハンプシャーはロムニーが知事を務めたマサチューセッツに隣接しており，また保守色が薄いために，地理的・イデオロギー的にみてもロムニーが有利な州であったが，2008年予備選挙では中道層をマケインに取られ敗れている。ロムニーにとってこの州での懸念材料は，反戦を訴えるポールや中道派のハンツマンにロムニーの票が食われることにあった。ポールは23%の得票率で2位に入り，アイオワでは得票率わずか1%であった中道派のハンツマンはニューハンプシャーで17ポイントの得票率を挙げ3位に入ったように中道・リベラル票の多さが表れた結果となった。

他方，保守派については，アイオワで25%の票を得たサントラムはニューハンプシャーでは，わずか9%にとどまった。仮に，アイオワでのサントラムの勝利が，ニューハンプシャーよりも前に発表されていたら，サントラムはここニューハンプシャーや次のサウスカロライナでもっと健闘できた可能性があった。同じ保守派のギングリッチも9%であり，ニューハンプシャーの保守票の少なさを表している。

アイオワとニューハンプシャーとの結果の大きな違いの原因のひとつに，党員集会と予備選挙という形態の違いを挙げることができる。アイオワの党員集会に参加した人の数は同州で本選挙にロムニーが獲得した票数の16%でしかないのに対して，ニューハンプシャーの予備選挙では74%にのぼる。党員集会に参加する人は活動的な党員に偏る傾向があるのに対して，予備選ではより広範な支持者が参加する傾向があり，そのことも選挙結果の違いに反映されていたと考えられる。党員集会の方が保守的な層が参加する傾向があり，言いかえれば原理主義者（ファンダメンタリスト）の参加率が高い。それに対して予備選挙ではより穏健な考えをもつ層が参加する傾向がある。一般的にいえば，予備選挙の方が党員集会よりも支持者の民意の反映度は

高い。

また，ニューハンプシャーは伝統的に保守派が少なく，穏健派が多いことも同州でのロムニーの勝利に多いに関係している。CNN が報じたところの入口・出口調査によればアイオワ党員集会の参加者のイデオロギー分布は「保守」が 83%，「中道・リベラル」が 17%であったのに対して，ニューハンプシャーの予備選挙では，「保守」が 53%，「中道・リベラル」が 47%という分布になっていた。また，内政における近年のアメリカの保守には，減税や愛出削減を主張する“財政保守”と人工妊娠中絶反対，同性婚合法化反対といった“社会保守”に分けられる。出口調査によると，ニューハンプシャー予備選挙の投票者では財政保守層は 65%であったのに対して，社会保守層は 38%にとどまっていた。中道派のハンツマンはアイオワでの選挙キャンペーンを回避してニューハンプシャーに重点を置いた（Burton 2014）。近年の結果をみると，2000 年と 2008 年に穏健派のジョン・マケインが勝利を収めている（Paulson 2013: 32）。結果は 39%の票を獲得したロムニーが 1 位，そして 23%の得票率を挙げたポールが 2 位となった。1 週間前のアイオワで検討したサントラムはここニューハンプシャーでは振るわず，得票率 9 %で 4 位に終わった。

出口調査結果をみると，ポールは 18 歳から 29 歳までの若年層で最も多くの支持を集め，年齢が上昇するほど弱い「若年型」のパターンを示す一方，ロムニーは中高年層に強かった。また，所得との関係において両候補は対照的な得票パターンを示し，ロムニーは所得が高い層ほど得票率が高い「高所得型」である一方，ポールは所得の低い層ほど強い「低所得型」の得票パターンを示した。イデオロギー別にみると，ロムニーは保守層からも中道・リベラル層からもほぼ同水準の得票を挙げた。それに対してギングリッチとサントラムは保守層からより多くの票を獲得する「保守型」，ポールは保守層よりも中道・リベラル層からやや高い得票率を挙げた（表 7）。

表7　イデオロギーと投票

	ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
アイオワ（C）				
保守	22	**28**	15	18
中道・リベラル	35	8	6	**40**
ニューハンプシャー				
保守	**42**	15	14	19
中道・リベラル	**38**	5	3	26
サウスカロライナ				
保守	24	19	**45**	11
中道・リベラル	**34**	13	31	18
フロリダ				
保守	**41**	16	37	6
中道・リベラル	**59**	7	20	11
ネバダ（C）				
保守	**51**	11	23	15
中道・リベラル	**48**	4	12	36
アリゾナ				
保守	**47**	30	16	6
中道・リベラル	**48**	15	17	15
ミシガン				
保守	**43**	41	7	7
中道・リベラル	**39**	33	6	17
ジョージア				
保守	24	21	**50**	4
中道・リベラル	28	17	**40**	12
マサチューセッツ				
保守	**72**	15	5	7
中道・リベラル	**72**	9	4	12
オハイオ				
保守	35	**41**	15	8
中道・リベラル	**43**	29	11	14
オクラホマ				
保守	25	**38**	28	9
中道・リベラル	**38**	19	28	12
テネシー				
保守	25	**42**	25	6
中道・リベラル	**33**	28	21	15
バーモント				
保守	**45**	26	11	16
中道・リベラル	**35**	21	6	34
バージニア				
保守	**64**			36
中道・リベラル	**50**			50
アラバマ				
保守	24	**37**	35	3
中道・リベラル	**39**	29	18	9
ミシシッピ				
保守	27	**35**	33	4
中道・リベラル	**38**	28	26	7
イリノイ				
保守	**47**	39	9	5
中道・リベラル	**48**	27	7	17
ルイジアナ				
保守	27	**51**	17	5
中道・リベラル	29	**40**	15	12
メリーランド				
保守	**50**	32	11	6
中道・リベラル	**48**	22	11	16
ウィスコンシン				
保守	**49**	39	5	6
中道・リベラル	**36**	33	7	19

（注）　太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

保守票の食い合い ── ギングリッチとサントラム ──

既述のように，2012年予備選の特徴は，原理主義派からギングリッチ，サントラムの2名の有力候補が存在したことである。リアル・クリア・ポリティクスによる継続的全国世論調査によると，2011年の11月後半から翌年1月3日のアイオワ党員集会の直前までは，ギングリッチの支持率はロムニーを上回って第1位であった（Real Clear Politics 2012)。アイオワの結果でサントラムが一躍注目されると，支持率においてギングリッチはサントラムに食われ，急落する。サントラムの勝因は徹底したドブ板選挙であった。サントラムはアイオワの99の郡（カウンティ）を訪れ，主として社会保守層などに支持を訴えた（Burton 2014)。アイオワ，ニューハンプシャーの2州でギングリッチは大敗したが，これは頼みの保守票が獲得できなかった結果でもあった（表8，表9)。

表8 「強い保守層」の選択

	ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
アイオワ（C）	14	**35**	14	15
ニューハンプシャー	**33**	26	17	18
サウスカロライナ	19	23	**48**	9
フロリダ	30	22	**41**	6
ネバダ（C）	**46**	15	25	14
アリゾナ	**41**	36	17	4
ミシガン	36	**50**	7	5
ジョージア	19	25	**53**	4
マサチューセッツ	**64**	21	6	8
オハイオ	30	**48**	15	7
オクラホマ	21	**40**	32	6
テネシー	18	**48**	27	6
バーモント	33	**34**	13	18
バージニア	**64**			36
アラバマ	18	**41**	36	4
ミシシッピ	22	**39**	35	4
イリノイ	37	**48**	9	5
ルイジアナ	23	**53**	18	4
メリーランド	39	**42**	15	4
ウィスコンシン	**44**	43	5	8

（注） 太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

表9 「弱い保守層」の選択

	ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
アイオワ（C）	**32**	19	16	21
ニューハンプシャー	**48**	38	11	19
サウスカロライナ	30	15	**41**	13
フロリダ	**52**	9	32	5
ネバダ（C）	**57**	6	19	17
アリゾナ	**52**	25	15	8
ミシガン	**50**	32	7	9
ジョージア	31	16	**47**	5
マサチューセッツ	**76**	12	5	6
オハイオ	**40**	34	16	9
オクラホマ	32	**35**	21	12
テネシー	**35**	33	23	8
バーモント	**53**	22	10	15
バージニア	**65**			35
アラバマ	31	31	**33**	3
ミシシッピ	**33**	31	31	4
イリノイ	**55**	31	8	5
ルイジアナ	32	**47**	14	6
メリーランド	**58**	25	9	8
ウィスコンシン	**55**	36	5	5

（注） 太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN（2012b）

これら2州でのギングリッチの大敗の一因は他陣営からのネガティブキャンペーンであった。2011年の11月中旬から12月にかけて世論調査での支持率がトップであったギングリッチに対して，他候補陣営から集中砲火を浴びた。アイオワでロムニー陣営は，“何がオバマをハッピーにするかお分かりですよね。それはニュート・ギングリッチの荷物です。ニュートは飛行機よりも重い荷物を持っています。”というテレビCMを流した（Johns, Steinhauser, and Dimmler, 2011）。つまり，ギングリッチにはネガティブな要素があまりにも多く，本選挙ではとてもオバマに勝てないというメッセージであった。2011年12月にアイオワで行われたすべてのキャンペーン・ア

ドの45%が反ギングリッチ広告であり，その主な資金提供者はポール，ペリー，そしてロムニーの3陣営だったという（Salant 2012)。

けれども1月21日に行われたサウスカロライナでの予備選挙では，隣接するジョージア州をホームステートとするギングリッチが4割を獲得してトップとなり，今後に望みをつないだ。サウスカロライナではギングリッチは保守票の半数近くから支持され，また中道・リベラル層からもロムニーに近い3割の支持を得た。そして，全国世論調査での支持率は急上昇してロムニーを上回ってトップに立った[3]。ギングリッチ陣営はペリー陣営とともにロムニーに対するネガティブ・アドとしてロムニーがかつて所属したベインキャピタル批判を展開した。例えば，ベインキャピタルにより買収された企業で解雇された元従業員をテレビCMに登場させ，ベインキャピタルの無情さを訴えた（Gabriel 2012, Dover 2012)[4]。

サウスカロライナでのロムニー敗戦により，ロムニー陣営は次のフロリダで勝つことが必須と考え，同州でのキャンペーン，特にサウスカロライナで勝って勢いに乗るギングリッチ潰しに力を入れた[5]。その効果もあって，サウスカロライナ州予備選から10日後に行われたフロリダ予備選挙で，ロムニーはギングリッチに14ポイント差をつけて勝利を収め，またギングリッチとサントラムの合計票を上回る票を獲得した。フロリダ予備選挙での保守層の割合はサウスカロライナとほぼ同率であったが，過去の予備選挙結果をみると，保守派に分が悪い州でもあった。たいていの州では白人以外の投票者は微小であるが，フロリダは共和党支持者が多いキューバ系ヒスパニックが多数存在する。2008年のフロリダ予備選挙でロムニーは，キューバ系の票を獲得できずにマケインに敗れたが，2012年にはヒスパニックから54%の票を獲得した。

イデオロギー別には，「強い保守層」ではギングリッチを下回った（ギングリッチ41%，ロムニー30%）ものの，「弱い保守層」ではギングリッチを

大きく上回り，（ロムニー52%，ギングリッチ32%），これら2つを合わせた保守層全体でロムニーはギングリッチを上回る票を獲得した。他方，サウスカロライナとの連勝を狙ったものの2位という結果になったギングリッチは，その後もロムニーとの事実上の一騎打ちの展開に持っていくべく，闘争心をあらわにしたがそれはならなかった。ギングリッチは2月7日のミズーリ予備選挙には出馬せず，その後，1月下旬に再びトップに立った世論調査での支持率も2月に入り急降下した。そして，2月以降の予備選で第1位をとったのは3月6日のスーパーチューズデーに行われた地元ジョージア州のみという結果にとどまった。

それに対して，同じ原理主義派のサントラムは，ギングリッチがスキップした2月7日のミズーリでロムニーにダブルスコア以上の得票で圧勝すると，勢いを増していく。リアル・クリア・ポリティクスの全国調査では，支持率は急上昇し，2月中旬にはギングリッチとロムニーを相次いで抜いてトップに立った。ここで，ギングリッチは事実上有力候補から脱落し，戦いの焦点はロムニー対サントラムとなる。予備選挙での保守票も，ギングリッチは一部の州を除いてほとんど獲得できなくなる。表8に示す「強い保守層」に関しては，ここで掲げた20州のうち，サントラムが最も高い得票率を挙げた州が11にのぼったのに対して，ギングリッチは南部の3州で最多得票率を挙げたにすぎない。

なお，3月6日のスーパーチューズデーに行われるバージニア予備選に関しては，ギングリッチとサントラムの両候補が投票用紙に記載されないという事態となった。2011年12月末にバージニア州共和党は，ギングリッチとサントラムはバージニア予備選挙で投票用紙に記載されるために必要な登録有権者1万人（下院各選挙区から最低400人）の署名要件を満たしていないと判断され，投票用紙に記載されないことになった。これら2名のほかにハンツマン，ペリー，バックマンも同要件を満たさなかった（Kumar 2011a,

2011b)。

ロムニー勝利へ

ロムニーにとって大きかったのは，1月21日のサウスカロライナで勝利し，勢いに乗りかけていたギングリッチを10日後のフロリダで破ったこと，2月末に出身州であるミシガンでサントラムを接戦の末破ったこと，加えて3月6日のオハイオでも接戦の末，得票数でサントラムを上回ったことが挙げられる。ロムニーは他の陣営から，“保守ではない”“カネの亡者”やベインキャピタルの事業に対する批判が展開され，ベインキャピタル批判に関しては，本選挙においてはオバマ陣営からも同様なネガティブキャンペーンがなされることになる。

出口調査からいえるロムニーの主な勝因は次の2点である。ひとつは，彼がオバマに勝てる可能性が最も高い候補者であると投票者からみなされていたことである。投票基準を「オバマに勝てる候補」とした現実主義的参加者の票に関して，サウスカロライナとジョージア以外のすべての州でロムニーが最多得票を獲得した（表10)。予備選においてもロムニーは，自分が他のいかなる候補者よりもオバマに勝つ可能性が高いことをアピールしていたが，これには当然ながら世論調査結果の裏付けが存在していた。

例えば，CBSニュースとニューヨークタイムスが2012年1月中旬に実施した全国世論調査において，オバマ対共和党候補の一人，という“ヘッド・トゥ・ヘッド（head-to-head)”の形式で，「今，投票するとしたらどちらに投票するか？」という質問項目が設定された。回答の結果はオバマ対ロムニーの対決パターンでは両者ともに45%のタイであった。次にオバマに接近していたのはポールであり，オバマを4ポイント下回っていた。そして，共和党候補がサントラム，ギングリッチ，ペリーのケースでは，共和党候補に投票すると回答した者のパーセンテージはいずれも4割を下回り，オバマに投

表10　投票基準：オバマに勝てる

	ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
アイオワ（C）	**48**	13	20	9
ニューハンプシャー	**63**	6	12	11
サウスカロライナ	37	7	**51**	4
フロリダ	**58**	6	33	2
ネバダ（C）	**70**	4	20	5
アリゾナ	**54**	24	20	2
ミシガン	**61**	24	8	4
ジョージア	38	12	**48**	2
マサチューセッツ	**86**	7	4	2
オハイオ	**52**	27	16	5
オクラホマ	**45**	18	34	2
テネシー	**40**	25	32	3
バーモント	**62**	15	12	10
アラバマ	**51**	15	32	1
ミシシッピ	**46**	22	30	1
イリノイ	**74**	17	7	2
ルイジアナ	**50**	30	16	3
メリーランド	**72**	13	10	5
ウィスコンシン	**68**	22	6	4

（注）太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

票すると回答したパーセンテージに対して11〜12ポイント下回っていた。

つまり，この調査結果は，オバマに勝つ可能性が最も高い共和党候補者はロムニーであり，保守派の候補者では勝ち目が薄いことを示していた。共和党の候補者による支持率の違いに関しては，無党派層（インデペンデント）の回答が強く反映されており，穏健派のロムニーかリバタリアンのポールが共和党候補者となった場合には，無党派層はオバマよりも共和党候補を選択する者が多いという結果となっていた。それに対して，保守派の3候補（サントラム，ギングリッチ，ペリー）のケースではオバマに投票すると回答した者が多かった（Condon 2012）。無党派層には比較的若い有権者が多く，年齢が若くなるほど同性婚賛成などの社会リベラルが多くなるために，社会

表 11　投票基準：真の保守

	ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
アイオワ（C）	1	36	4	**37**
ニューハンプシャー	13	22	16	**41**
サウスカロライナ	2	33	**38**	27
フロリダ	11	30	**44**	13
ネバダ（C）	4	26	31	**39**
アリゾナ	15	**39**	26	21
ミシガン	18	**58**	6	15
ジョージア	4	24	**58**	14
マサチューセッツ	**36**	32	9	21
オハイオ	13	**51**	18	18
オクラホマ	4	**48**	23	25
テネシー	6	**53**	22	19
バーモント	12	**37**	12	**37**
アラバマ	5	**51**	34	8
ミシシッピ	7	**52**	34	5
イリノイ	11	**69**	9	10
ルイジアナ	5	**73**	11	12
メリーランド	11	**59**	14	16
ウィスコンシン	13	**64**	7	16

（注）太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

保守の立場に立つ候補者にとって不利に働くという構造が横たわっていたためである。

また，最重要争点については，各州とも「経済」を挙げる者が最も多かったが，ロムニーはこの層に支持を受け，ほとんどの州でトップの得票を挙げた（表 14）。サントラムと大接戦となったミシガンにおいても，「オバマに勝つ可能性が最も高い候補」としてロムニーを挙げた投票者は最も多く（53%），サントラム（26%）の 2 倍にのぼった。その理由としては，本選挙で中道層の支持を得やすいという点があるが，その他，ロムニーの選挙キャンペーンの組織力そして資金力における優越性も挙げられる。ポール以外の候補者で大統領予備選を戦った経験があるのはロムニーだけであったために，

表12　投票基準：倫理的な性格

	ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
アイオワ（C）	11	**40**	5	23
ニューハンプシャー	20	17	2	**40**
サウスカロライナ	19	**42**	6	31
フロリダ	**46**	27	8	18
ネバダ（C）	**51**	15	2	33
アリゾナ	34	**41**	2	15
ミシガン	17	**59**	2	20
ジョージア	19	**53**	13	15
マサチューセッツ	**46**	25	2	23
オハイオ	19	**60**	8	12
オクラホマ	21	**60**	6	11
テネシー	15	**65**	5	13
バーモント	16	**41**	2	39
アラバマ	24	**61**	6	7
ミシシッピ	22	**65**	8	5
イリノイ	18	**62**	2	17
ルイジアナ	6	**71**	13	9
メリーランド	25	**54**	5	14
ウィスコンシン	21	**55**	2	20

（注）太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

他候補よりもキャンペーン態勢が整えられていた点も指摘されている（Burden 2014）。

もう一つの理由は，経済を最もうまく扱えると思われたことである。2008年のリーマンショックから立ち直れない状況下にあって，予備選投票者の最も多くは最重要争点を経済としており，その経済を重視した投票者からロムニーは手堅い支持を得た。また，ビジネスの世界で成功し高額所得者であるロムニーは経済的手腕が期待された。本選挙でも一般有権者が最も重視するイッシューは経済になることは明白であり，本選挙で勝つためには“経済に強い”ロムニーが最も勝ち目がある候補者と捉えられた。

年齢階層別に検討すると，予備選投票者に占める割合が大きい後期中年層

表 13　投票基準：適した経歴

	ロムニー	サントラム	ギングリッチ	ポール
アイオワ（C）	**35**	6	28	16
ニューハンプシャー	**36**	2	12	14
サウスカロライナ	34	2	**49**	11
フロリダ	40	4	**45**	8
ネバダ（C）	**51**	2	34	13
アリゾナ	**57**	18	14	10
ミシガン	**57**	16	12	9
ジョージア	28	3	**62**	5
マサチューセッツ	**82**	2	6	7
オハイオ	**48**	24	17	10
オクラホマ	30	9	**54**	6
テネシー	**42**	10	35	9
バーモント	**54**	6	10	23
アラバマ	33	6	**51**	5
ミシシッピ	29	8	**59**	4
イリノイ	**64**	8	15	11
ルイジアナ	N/A	N/A	N/A	N/A
メリーランド	**65**	9	18	7
ウィスコンシン	**59**	19	10	7

（注）太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

や高齢層でロムニーは大きな支持を得た（図 3）。このことは，年齢層が高くなるに従って“本選挙で勝てる候補者”に投票するという現実主義的な選択を行う傾向が存在することも示唆している。また，ロムニーは出口・入口調査が行われたすべての州で，高所得者層に最も支持された（表 15）。これは，ロムニーがメインストリート派の愛党精神派に位置付けられるとはいえ，今回の有力候補のなかではウォールストリート派に近い存在であったことを暗に示している。イデオロギー別には，「強い保守層」ではトップに立った州はさほど多くないものの，「弱い保守層」からは大きな支持を得た（表 8，表 9）。表 9 に示すように，南部の 5 州以外でロムニーは「弱い保守層」から最も多くの票を獲得している。

表14　最も重要な争点：経済

	ギングリッチ	ポール	ロムニー	サントラム
アイオワ（C）	13	20	**33**	19
ニューハンプシャー	8	20	**46**	7
サウスカロライナ	**40**	11	32	14
フロリダ	30	6	**52**	11
ネバダ（C）	19	15	**58**	8
アリゾナ	14	7	**50**	29
ミシガン	7	13	**47**	30
ジョージア	**50**	6	30	13
マサチューセッツ	4	8	**77**	9
オハイオ	18	8	**41**	33
オクラホマ	29	10	**34**	26
テネシー	25	8	31	**34**
バーモント	8	25	**44**	20
バージニア		35	**65**	
アラバマ	28	6	**35**	28
ミシシッピ	31	3	**33**	**33**
イリノイ	6	10	**52**	31
ルイジアナ	15	7	30	**46**
メリーランド	11	9	**55**	23
ウィスコンシン	5	11	**48**	33

（注）　太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

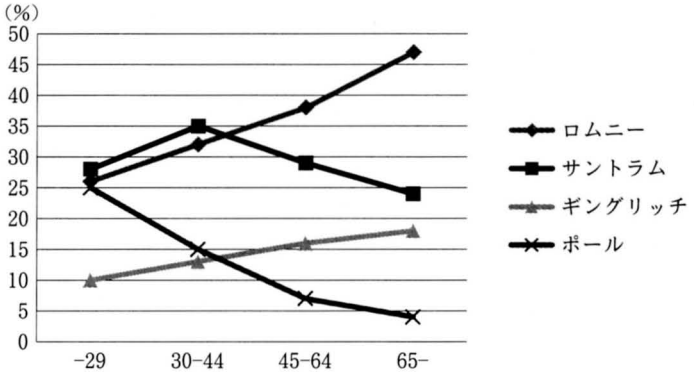

図3　年齢別得票（中位値）

表 15　ロムニー投票者の割合（年間所得階層別）

	5万ドル未満	5万ドル～10万ドル	10万ドル以上
アイオワ（C）	16	21	**36**
ニューハンプシャー	31	35	**48**
サウスカロライナ	25	25	**34**
フロリダ	44	45	**52**
ネバダ（C）	39	53	**58**
アリゾナ	43	47	**52**
ミシガン	36	37	**48**
ジョージア	22	22	**32**
マサチューセッツ	70	68	**76**
オハイオ	34	32	**46**
オクラホマ	19	33	**39**
テネシー	24	26	**35**
バーモント	38	39	**44**
バージニア	50	59	**64**
アラバマ	26	28	**36**
ミシシッピ	27	30	**34**
イリノイ	41	43	**56**
ルイジアナ	16	25	**34**
メリーランド	41	48	**53**
ウィスコンシン	39	42	**53**

（注）太字は最もパーセンテージが高い値。
データ出所：CNN 2012b.

結果的に，ロムニーの最大のライバルとなったサントラムだが，投票の際に「オバマに勝てる」を最も重視した層ではいずれの州でもトップになれなかったばかりか，3位や4位になっている州も少なくない。これはサントラムの主張が本選挙で勝つには「保守的すぎる」と捉えられていたことが主な理由である。つまり，サントラムは，“勝てる候補”に投票する現実主義派の票をとれなかったことが最大の敗因といえる。サントラムは，「強く倫理的な性格」を投票基準とした層や，「真の保守」を投票の基準とした層からは支持を得たが，序盤戦には「真の保守」を重視した参加者は，サントラムよりもポールやギングリッチを支持することが多かったこともマイナスに働

いた。また，「適した経歴」を重視する層からはほとんど得票できず，彼の保守性の強さと経歴の乏しさから本選挙の候補者としては不適格と判断されたのであった。

そして，最も重要な争点として「経済」を挙げた層からほとんどの州でサントラムがロムニーを下回ったことも敗因のひとつとして挙げて良い（表14)。とはいえ，予備選開始前の世論調査からすると，サントラムは十分に健闘したといってよい。その理由はサントラムの強い保守色をして，予備選が保守的な共和党支持者の意見や感情の発露の場となったことが挙げられる。サントラムは4月3日にウィスコンシン，DC，メリーランドでロムニーが勝利した後の4月10日，難病による娘の入院を理由に予備選から撤退し，ロムニー勝利が事実上確定した。

元下院議長として高い知名度を誇るギングリッチは，経歴的には申し分がないともいえ，実際，経歴を重視する層からはかなりの支持を得た。ただ，「真の保守」を重視する層が，特に後半，サントラムに流れ，1月にはギングリッチが強い南部地域のサウスカロライナ，フロリダでは「強い保守層」からも最も多くの票を獲得した。しかし，3月に入ってからは，地元のジョージアを除く南部5州（オクラホマ，テネシー，アラバマ，ミシシッピ，ルイジアナ）においても，同じ保守系候補のサントラムにより多くの票が行った（表11)。また，結婚・離婚を繰り返すなど彼のスキャンダラスな私生活が保守票の獲得にとって致命的な欠点となったことも否めない。予備選序盤の1月中旬には元妻（2番目の妻）からギングリッチがオープン・マリッジを要求したとのエピソードが暴露され，少なからぬダメージを受けた（CNN 2012a)。特にギングリッチが頼りとする保守層には候補者の道徳心を重視する層が少ないこともあり，このようなスキャンダルの影響は少なくなかったと推測される。

ポールは，序盤戦では健闘する州もみられたが，3月6日のスーパーチュー

ズデー以降は，ほとんど振るわなかった。加えて，図3に示す彼の若年型の得票パターンは，参加者に占める若年層の割合が低い共和党予備選では不利に働いた。

イデオロギーと投票

過去の共和党予備選で勝利を収めた候補者のイデオロギー別の得票パターンは3つのパターンが存在する。第一のパターンは，中道層やリベラル層よりも保守層から多くの支持を得る“保守型”である。レーガンやジョージ・W・ブッシュがこれに該当する。第2のパターンは保守層よりも中道リベラル層により多く支持される“中道・リベラル型”あり，フォードとマケインがこの得票パターンであった。第3は，いずれのイデオロギー層からもほぼ均等に支持を得る“フラット型”であり，ブッシュ（父）やドールがこの得票パターンであった（Paulson 2013）。2012年のロムニーはフラット型に近かったが，原理主義派の有力候補が2名も存在したこともあって「強い保守層」に弱かった。図4で示すように，「強い保守層」はサントラム支持が最も多く，ロムニー支持が最も多かったのは「弱い保守層」である。

ギングリッチは弱いながらも保守型，ポールは中道リベラル型を示している。

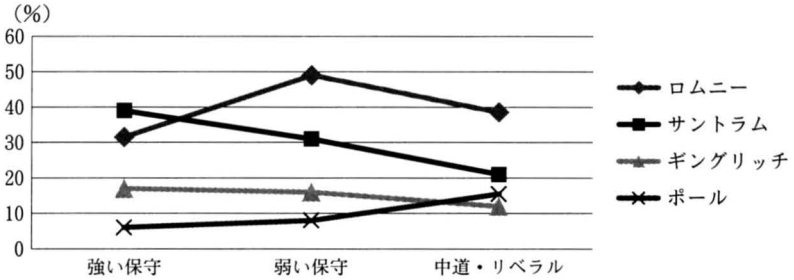

図4　イデオロギーと投票（中位値）

おわりに

2012年大統領選での共和党候補者指名を争う予備選レースにおいて，次から次へと名乗りを挙げた保守系候補にとってはローラーコースターのような展開であった，2011年にはまずテキサス州知事のペリーが急浮上して落ち，次に実業家のケインが急浮上して落ち，次に元下院議長のギングリッチが浮上して落ちた。そして2012年に入るとサントラムが浮上して落ちた。その中で穏健派に属するロムニーは比較的安定した支持率を維持した上で，徐々に支持率を拡大することにも成功し，4月はじめに勝利を確実にした。ロムニーの勝因としては，豊富な資金力や選挙キャンペーン戦略の成果だけでなく，他候補に降りかかった予測不可能な出来事，たとえば私生活上のスキャンダルや討論会でのミス，などに助けられたものでもあった。

視点を変えると，共和党予備選の参加者の“保守化”現象が認められる反面，保守的な理念の体現者を選ぶよりも選挙で勝てる候補者（electability）という現実主義的な選択を行った面も指摘できる。また，ひとくちに保守派といっても，ティーパーティ派，福音主義者，外交タカ派，リバタリアンといった多様な層から構成されており，これらの各層が反ロムニー候補の何れかに合流することの困難性を明らかにしたともいえる。

本稿ではまず，アメリカの共和党の派閥に関して論述し，さらに2012年共和党大統領予備選についてデータに基づいて記述した。近年のアメリカの2大政党制は，かつてよくいわれた「ラベルの違う二つのビン」や「似たりよったりの二物」（竹尾1977：99）ではなく，両極化（Polarized）している。また，共和党予備選の投票も分散化している。

しかしながら，両極化のなかで，保守派・原理主義派の候補者が有力候補として存在してはいるものの，共和党の大統領指名を得るには大きな壁が存

在していることも今回の予備選結果は再確認させた。その理由は，本選挙で勝てる候補者を選びたいという合理主義的な投票者が多く，保守色の強い候補者がその層から支持を得るには限界が存在することである。本選挙で民主党候補を破るには中道層から多くの支持を得なければならず，原理主義派を選ぶことは負けを覚悟した選択となってしまう。また，同性婚に対する世論などは次第に容認派が増えてきており，この世論の変化も社会保守を強調する候補者にとって不利に作用している（Lydia Saad 2013)。

予備選の存在は，大統領候補の選出過程の民主化をもたらすが，同時に党内のイデオロギー的亀裂を明確化させる。今回の予備選は，共和党がリバタリアン，穏健保守，原理主義的保守という3つのイデオロギーに分裂していることを表したといえる。結果的には，大本命であった穏健保守のロムニーの圧勝となったが，予備選の過程で過熱化したネガティブキャンペーンは共和党の亀裂を印象付けてしまった面も否定できない。

そして，共和党の派閥間の違いがしばしば指摘され，共和党の統一性を確保することが難しくなってきている。例えば，オーンステイン（Norm Ornstein）は現在の共和党には少なくとも5つの共和党が混在しており，そのうちの2つは保守的で妥協を許さないために，共和党の意思決定を妨害しているとする（Ornstein, 2013)。また，筋金入りの共和党員であり，ジョージ・W・ブッシュの盟友であるカール・ローブ（Karl Rove）も，州知事選などでの共和党候補の主張が保守的すぎるためにかえって共和党支持層の結束が損なわれ，また中道票を逃してしまって，勝てる選挙をいくつも落としていると分析し，候補者は派閥をまとめ上げる力が必要であると主張している（Rove 2013)。

ただ，大統領選では副大統領候補の選び方で，分裂している共和党員をまとめ上げるという方法がある。2008年のマケインは保守派のペイリンをランニング・メイトに選び，2012年のロムニーも保守派のライアン（Paul

Ryan）を選ぶことにより保守票を固める戦略に出た。しかし，穏健派の大統領候補者が保守色の強い副大統領候補を選ぶことには大きなリスクもある。それは，副大統領候補の保守色が必要以上に目立つことによって，中道層の多い無党派層の票を得ることが難しくなるという点である。

白人比率の低下を伴う人種的多様化というアメリカ社会の変容に対応していく上で，保守化によって対応していくのか，あるいは穏健化によって対応するのか，という分岐点に共和党は差しかかっている。

《注》

（1） アメリカにおいて2党制が維持されている主要因に関しては，小選挙区制や大統領制といった制度にその原因を求める制度理論（Institutional Theories），アメリカ社会の利益が2元的対立が続いていることに原因を求めるデュアリスト理論（Dualist Theory），アメリカの政治的成熟や文化的特性に求める文化理論（Cultural Theory），広範な社会的コンセンサスの存在にその原因が存在するとする社会的合意理論（Social Consensus Theory），がある（Sorauf and Beck 1988: 43-7）。

（2） ペリー自身も，10月下旬に出演したフォックスニュースの番組の中でのビル・オライリー（Bill O'Reilley）によるインタビューに対して，9月22日のディベートにおける移民問題に関する自身の発言のミスを認めている（Jhonson 2011）。

（3） 1月26日調査によれば，ギングリッチ31.0%，ロムニー27.3%，サントラム15.8%，ポール12.5%という支持率の分布であった（Real Clear Politics 2012）。

（4） ギングリッチやペリーが，ロムニーがかつて勤務したベインキャピタル社を批判の的としたことに対して元ニューヨーク市長のジュリアーニ（Rudolph William Louis Giuliani）は，出演したフォックステレビの番組の中で厳しく批判したことが話題となった。番組のなかで，司会者に仮にギングリッチに電話でアドバイスをするとしたならばどう言うかと尋ねられ，それに対してジュリアーニは，「一体何をやってるんだ，ニュート。」と言うだろうと述べた（Terkel 2012）。

（5） 例えば，ロムニーがフロリダでのテレビでのキャンペーンに費やした費用は，

11万ドルを超えたのに対して，ギングリッチのそれは2万ドルに満たなかった。そしてテレビ広告の9割以上がネガティブ・アドであり，全体の3分の2以上がギングリッチに対するネガティブ・アドであった（Balz 2012)。

参考文献

『朝日新聞』2011年10月19日朝刊，「米大統領選の指名争い，共和党は1月開始」。

Balz, Dan, 2011, Florida Primary: Mitt Romney wins decisive victory, January 31, *The Washington Post,* http://www.washingtonpost.com/politics/romney-confident-as-florida-republicans-vote-in-primary/2012/01/31/gIQAhq7xeQ_story.html. (accessed 12/27/2013).

Burden, Barry C., 2014, The Nominations: Ideology, Timing, and Organization. In Michael Nelson eds, *The Elections of 2012,* Los Angeles: Sage CQPress.

Burton, Michael Jhon, 2014. The Republican Primary Season: Strategic Positioning in the GOP Field. In Dennis W. Jhonson eds, *Campaigning for President 2012: Strategy and Tactics.* New York, Routledge.

CNN 2012a. 1月19日，http://www.cnn.com/2012/01/19/politics/gingrich-wife/ (accessed 12/01/2013).

CNN 2012b. *CNN Politics*. http://www.cnn.com/ELECTION/2012/ (accessed 11/12/2013).

Condon, Stephanie, 2012, Poll: Obama Ties Romney in head-to-head match up, January 18, *CBS News*, http://www.cbsnews.com/news/poll-obama-ties-romney-in-head-to-head-match-up/ (accessed 12/27/2013).

Crewe, Ivor, and David Denver, eds, 1985. *Electoral Change in Western Democracies: Pattern and Source of Electoral Volatility.* London: Croom Helm.

Dalton, Russel J., Paul A. Beck, and Scott C. Flanagan eds, 1984. *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Ralignment or Dealignment?* Princeton University Press.

Dalton, Russel J., and Martin P. Wattenberg, 2002. *Parties without Partisans: Political Change in Advanced Industrial Democracies.* Oxford University Press.

Dover, Elicia, 2012. Ads attack Romney's business record, will run in South Carolina, January 9, *ABC News*, http://abcnews.go.com/blogs/politics/2012/01/gingrich-super-pac-film-trailer-about-romney-released/ (accessed 12/04/2013).

Gabriel, Trip, 2012. PAC deluges South Carolina Airwaves with Anti-Romney Ads. *New York Times*, January 12, http://thecaucus.blogs.nytimes.com/2012/01/12/pac-deluges-south-carolina-airwaves-with-anti-romney-ads/ (accessed 12/04/2013).

Gallup, 2012. 2012 Republican Presidential Nomination Poll, http://www.gallup.com/tag/Republican%2bNomination%2bRace.aspx (accessed 12/01/2013).

Johns, Jeo, Paul Steinhauser, and Erika Dimmler, 2011. Candidates turn Negative in Multimillion dollar Iowa television ad blitz, *CNN Politics*, December 28, http://www.cnn.com/2011/12/27/politics/iowa-ad-wars/ (accessed 12/04/2013).

Jhonson, Luke, 2011. Rick Perry Admits Mistakes On Immigration, GOP Debate, *Huffington Post*, Oct 26, http://www.huffingtonpost.com/2011/10/26/rick-perry-immigration-campaign-debates_n_1032367.html (accessed 12/25/2013).

Jones, Jeffrey M., 2011. Romney, Palin Lead Reduced GOP Field for 2012, May 26, *Gallup*, http://www.gallup.com/poll/147806/romney-palin-lead-reduced-gop-field-2012.aspx (accessed 12/26/2013).

Kumar, Anita, 2011a. Bachman, Huntsman, Santorum fail to make Va. ballot, *Washington Post*, December 23, http://www.washingtonpost.com/blogs/virginia-politics/post/bachmann-huntsman-santorum-fail-to-make-va-ballot/2011/12/22/gIQActuBCP_blog.html (accessed 12/01/2013).

Kumar, Anita, 2011b. Gingrich, Perry disqualified from Va. Primary ballot, *Washington Post*, December 24, http://www.washingtonpost.com/blogs/virginia-politics/post/perry-disqualified-from-va-primary-ballot/2011/12/23/gIQA3BZNEP_blog.html (accessed 12/01/2013).

MaKee, Seth Charles, 2010. *Republican Ascendency in Southern U.S. House Elections*. Boulder: Westview Press.

松尾式之 2004,『アメリカの永久革命』勉誠出版。

Murdock, Everett E, 2012. *Obama Won, but Romney Almost Was President*, Los Angeles: H.O.T Press.

Oliphant, James, 2011. Herman Cain Drops out of Presidential Race, *Los Angeles Times*. December 3, http://articles.latimes.com/2011/dec/03/news/la-pn-cain-announcement-20111203 (accessed 12/23/2013).

Ornstein, Norm, 2013. Republican Dilemma: Extreme Factions of GOP Thwart

Party's Efforts to build National Base, *National Journal*, July 10, http://www.nationaljournal.com/columns/washington-inside-out/republican-dilemma-extreme-factions-of-gop-thwart-party-s-efforts-to-build-national-base-20130710 (accessed 12/19/2013).

Paulson, Arthur, 2000. *Realignment and Party Revival*, Westport CT: Praeger Publisher.

Paulson, Arthur, 2007. *Electoral Realignment and Outlook of American Democracy*, Lebanon NH: Northeastern University Press.

Paulson, Arthur C., 2013. Presidential Nomination in a Polarized Party System: The Republican Primaries of 2012, In William J. Crotty ed., *Winning the presidency 2012* (Boulder CO: Paradigm Publisher).

Rae, Nicol C., 1989. *The Decline and Fall of the Liberal Republican*, New York, Oxford University Press.

_____ 1998. "Party Factionalism, 1946-1996," In Byron E. Shafer ed., *Partisan Approaches to Postwar American Politics*, New York, Chatham House.

Real Clear Politics 2012, 2012 Republican Presidential Nomination Poll, http://www.realclearpolitics.com/epolls/2012/president/us/republican_presidential_nomination-1452.html (accessed 12/01/2013).

Rove, Karl, 2013. GOP Candidates Must Unite Party's Factions, *USA TODAY*, November 7, http://www.usatoday.com/story/onpolitics/2013/11/07/karl-rove-cuccinelli-virginia-governor-shutdown/3465043/ (accessed 12/19/2013).

Saad, Lydia, 2013. In U.S., 52% Back Law to Legalize Gay Marriage in 50 States, *Gallup*, http://www.gallup.com/poll/163730/back-law-legalize-gay-marriage-states.aspx (accessed 12/03/2013).

Saenz, Arlette, 2011. Rick Perry's Debate Lapse: 'Oops' — Can't Remember Department of Energy, *ABC NEWS*, Nov 9, http://abcnews.go.com/blogs/politics/2011/11/rick-perrys-debate-lapse-oops-cant-remember-department-of-energy/ (accessed 12/25/2013).

Salant, Jhonathan D., 2012. Iowa Campaign Ads Show Power of Negativity in Republican Race, *Bloomberg*, January 3, http://www.bloomberg.com/news/2012-01-02/gingrich-standing-falters-as-negative-advertising-dominates-iowa-airwaves.html (accessed 12/04/2013).

Shafer, Byron E., eds., 1991. *The End of Realignment?: Interpreting American Electoral Era*, University of Wisconsin Press.

Sorauf, Frank J. and Paul Allen Beck, 1988. *Party Politics in America, Sixth edition* (Glenview, Illnois, Scott, Foresman and Company).

竹尾隆 1977,『現代アメリカ政党論』八千代出版。

Terkel, Amanda, 2012. Rudy Gulliani to Newt Gingrich: 'What the hell are you doing?' January 12, *Huffington Post*, http://www.huffingtonpost.com/2012/01/12/rudy-giuliani-newt-gingrich-2012-south-carolina-primary-bain_n_1202063.html (accessed 12/04/2013).

Wattenberg, Martin P., 1998. *The Decline of American Political Parties, 1952-1996*, Harvard University Press.

Woodward, Calvin, 2011. GOP Primary Election 2012: Republican Candidate' Positions, December 6, *Huffington Post*, http://www.huffingtonpost.com/2011/12/06/gop-primary-election-2012-republican-candidates_n_1132344.html (accessed 12/01/2013).